

2021 年度

人 権 を 学 ぶ 会

「 ま と め 」

実施期間:2021 年 9 月～11 月

北 栄 町
北栄町教育委員会
北栄町人権教育・啓発推進協議会

2021 年度 人権を学ぶ会 実施概要

北栄町の将来像である「人と自然が共生し 確かな豊かさを実感するまち」の実現のため、人権を尊重するまちづくりを推進する必要がある。その具体的な取り組みとして、町民一人ひとりが学ぶことをきっかけとして、“個性を認め合い、互いの心に寄りそうまち”をめざして「人権を学ぶ会」を実施した。

今年度の学習内容は、事務局が指定した DVD 視聴による学習と、北栄町健康サポーター及び(福)中部福社会による体験型学習から各自治会が選択・実施し、コロナウィルス感染症対策として、学習時間を短縮するため視聴後の懇談はなしとした。

また、各自治会の主体性を尊重し、実施の可否や参加定員の設定などは各自治会において判断していただいた。

なお、人権を学ぶ会の開催は 9 月 10 日から始まり、11 月 28 日で終了した。

【実施状況】

実施自治会	30 自治会
未実施自治会	33 自治会

【学習内容】

DVD 視聴	27 自治会
体験型学習	3 自治会

【特記事項】

未実施自治会に対しては、自治会内での人権啓発放送と、人権啓発チラシの配付を依頼した。

(学習のポイント・ねらい)

- 人権問題が私たちの生活の中で身近にあり、自分自身に関わる問題でもあることに気づき、問題解決に向けて自分たちに何ができるかを考える。
- これまでの自分の行動や発言について、差別に結びつくことや偏見などがなかったか振り返る。
- 人権問題に対する正しい認識や判断力を持ち、身のまわりの不合理を正していくための力をつけるために、継続的な学習参加の必要性を認識する。
- 一人ひとりが地域社会を担う一員であることを自覚し、お互いを認め合い、人と人との助け合い、支え合い、交流により、すべての人の人権が尊重された安心して暮らせるまちづくりにつなげる。

2021 年度 人権を学ぶ会 まとめ

実施期間 2021 年 9 月～11 月

実施自治会 30 自治会

参加者数 431 人（昨年度 597 人）

参加率 8.7%（昨年度 12.2%）

〔参加者の意見から〕

人権を学ぶ会の取り組みについて(抜粋)

- コロナで人と接する機会が減り、自分だけの世界に入り込みやすい日々、やはり多くの方と共に過ごす時間は貴重なものだった。
- 心の定期点検。続けることの大切さを感じた。
- 例年はDVD視聴での学習だったが、今日は朗読劇。このような具体的な内容であれば共感しやすいし、より学べる機会にもなると思う。
- 毎回DVD視聴のみで、終わってしまう物足りなさがある。もう少し、話し合い・討論などで内容を深めていけたら良いと思った。
- コロナ禍の中、開催して頂き感謝している。
- 新聞等、資料内容が充実しており、DVDの視聴ポイントの説明も良く分かった。
- 学ぶ会に子ども(小・中学生)が参加しやすい工夫が必要だと思う。

〔考察〕

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で各自治会の行事が相次いで中止となるなか、人権を学ぶ会の実施の可否について議論を重ね、北栄町人権教育推進協力員会議や北栄町人権教育地区推進員会議などでも検討し、開催時間の短縮や 3 密を避けるなどの感染防止対策を徹底したうえで実施することとした。

しかし、行事そのものを自粛している自治会での開催は困難であり、30 の自治会での開催にとどまり、参加者数も前年度と比較して 166 人の減となった。

なお、教材 DVD「風の匂い」が障がいのある人の人権をテーマとしていることから、今年度は関連団体である「北栄町障がい者地域自立支援協議会」及び「北栄町福祉課」と連携し、啓発チラシ等を作成、参加者に配布した。

さらに、DVD 視聴以外の学習方法を求める声に応え、北栄町健康サポーターによる朗読劇「コロナ差別と人権」を 2 自治会で、(福)中部福祉会による体験型学習「介護と美容」を 1 自治会で実施した。

社会・地域・家庭・自分を振り返っての意見(抜粋)

- 障がい者との共生社会を実現することは難しいが、頑張ればできることだと理解できた。合理的配慮をみんなでやっていくことの大切さが分かった。
- DVD は、地域にあるような内容で、障がいのある人のことや自分に置き換えて考えやすい内容だった。
- 壁は自分たちが作っていると気づかされた。相手の事を知る努力をしないと、いつまでも偏見から抜けられないと思う。
- 正しい知識を持っていない事が不安につながり、不安が自己防衛のために思わぬ行動に出てしまう。正しい知識を持つことの大切さを改めて学んだ。
- 障がいのある人が地域や社会に出ることで、私たちが配慮すればお互いを思いやり、暮らしやすい世の中になるように思った。

〔考察〕

人権を学ぶ会を実施した 30 の自治会のうち、26 の自治会で教材 DVD「風の匂い」を視聴し、障がいのある人の人権に関する学習テーマで学んだ。

障がいの有無にかかわらず、相手を大切に思うことがよりよい地域や職場につながっていくことに気づいたという意見や、作られたバリアや壁を崩すため、相手を理解する気持ち、その障がいを知ることが大切だとする意見が多くあった。

一方で、実際に自身がその場面に出会ったときに学習した内容がうまく活かせるか、不安を感じるという意見もあった。

作品中の「その壁って……。僕たちが作っているんじゃないですか」というフレーズが印象的だったとする感想も複数あり、実際に差別や偏見などがあることにまずは気づき、その解消のために自分は何ができるのか考えていく必要がある。

学んだことから行動に活かす意見(抜粋)

- 障がいのある人というだけで、無意識に壁をつくっていることがある。皆、違う個性を持っているので、認め合うことが大事だと思った。
- 子どもたちにこのような現実や自分がどう考え、どう行動できるかを考えさせる機会を作りたい。
- 一人ひとりが安心して住み良い地域になるように、行動したいと思う。
- 障がいの有無にかかわらず、共生できる地域をめざし、日常生活で心がけたい。
- 相手の立場になって考えて行動できるようにしたい。
- お互いを理解する事が大切。もしも困った人を見かけたら、「私に何かできることはありますか？」と一言声をかけられる勇気を持ちたい。

〔考察〕

「自分を振り返る良い機会になった」、「分かりやすく伝えるよう配慮したい」という意見を多くいただいた。日頃の自分自身を振り返る、地域や職場の中で障がいのある人との関わりを改めて考えるなど、学びを深める機会となっている。

人権を学ぶことで、一人ひとりが大切にされ、共に支え合える社会につながっていくことをさらに伝え、それぞれの行動を促していく必要がある。

〔参加者アンケート結果から〕

●アンケートの概要

次年度以降の学習方法・内容等の検討資料とするため、人権を学ぶ会の参加者を対象にアンケートを実施した。

また、2018年度よりアンケートにおける性別欄を撤廃した。これは、性的少数者への配慮に加え、性別の記載が必要な情報ではないと北栄町人権教育推進協力員会議で判断したことによる。

なお、これまではアンケートの回収率を上げるために、会の途中に記入時間を設けていたが、複数の要望を受け、昨年度より訪問者の終わりの挨拶等を聞いた後、閉会後にアンケート記入するよう日程を変更した。

◆アンケート回収率 93.7%(参加者 431人中 404人分回収)

※昨年度回収率 92.0%(参加者 597人中 549人分回収)

◆アンケート回答者の年齢

(単位:%)

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
2021年	1.0	0.5	3.6	9.8	16.0	39.9	25.8	3.4
2020年	0.2	0.2	4.4	14.3	18.2	36.4	23.5	2.8
2019年	3.9	0.5	5.0	14.4	17.1	33.7	22.1	3.3
2018年	1.0	0.2	3.5	11.2	19.2	40.2	21.8	2.9
2017年	1.2	0.1	2.8	13.0	20.9	42.5	17.8	1.7

〔考察〕

全ての参加者のうち、50代以下と60代以上で区分した場合の参加者割合は、50代以下は全体の31%(昨年37%)、60代以上は全体の69%(昨年63%)となり、50代以下の参加率が下がっている。

今年度も各自治会で、コロナ感染対策のため参加者を自治会役員のみに限定するなどの参加制限もあり、50代以下の参加率の低下の一因と推察される。

DVD視聴等を中心とした現在の学習方法は、中高生などを含めた若年層の参加も十分意義があり、今後も若年層の参加を増やしていくために、家族ぐるみの参加を促すことや、学校等への働きかけも継続していく必要がある。

なお、高齢者については老人クラブ等の団体を対象とした「人権を学ぶ会」を並行して開催しているため参加者が分散している状況もある。

●アンケート結果と分析(数値:%)

問1 本日の人権を学ぶ会に参加して、あてはまる回答にひとつ○をしてください。

① 今日の学習内容(DVD・ミニ講演等の内容)は、

	ア わかりやすかった	イ わかりにくかった	ウ どちらともいえない
2021年	95.8	2.0	2.2
2020年	90.8	2.6	6.6
2019年	83.8	4.2	12.0
2018年	75.1	6.9	18.0
2017年	89.9	1.6	8.5

〔考察〕

学習内容について「わかりやすかった」と回答した参加者は 95.8%で、過去 5 年間の中で最も高い割合となっている。

今年度は実施した多くの自治会で教材 DVD「風の匂い」を活用し学習しているが、アンケート意見の中には、DVDのねらいや視点が資料中に明記してあり分かりやすい、もっと地域の人に見てもらいたい内容である、心に響くストーリーであったなどの意見もあり、結果はその現れと考えられる。

また、今回の「障がいのある人の人権」というテーマは、障がいのある人との関わりは日常に直結しており、障がいの理解を深め、配慮の方法や寄り添う気持ちを持つことなど参加者の多くが自分事としてイメージしやすい学習内容だったこともこの割合につながっていると考えられる。

② 今回の懇談は、話しやすい雰囲気 で（懇談を行う学習パターンAのみの設問）

	ア あった	イ なかった	ウ どちらともいえない
2021年	—	—	—
2020年	—	—	—
2019年	71.7	2.2	26.1
2018年	59.7	4.5	35.8
2017年	74.0	3.9	22.1

〔考察〕

今年度も感染防止対策のため DVD 視聴後の懇談を実施しないこととしたため、アンケートの設問はしていない。

しかし、アンケートの自由記載欄には、懇談がないと学びが深まらない、コロナとはいえ懇談はやはり必要であるなど、懇談を求める意見が複数あった。

さらに、懇談という形ではなくても、多少の感想をいう場面が欲しかったとする意見もあり、これまで懇談を取り入れた学習方法を実施していた自治会やその参加者にとっては、物足りなさを感じていることが伺える。

③ 今回の人権を学ぶ会に参加して、今後に活かせる学習に

	ア なった	イ ならなかった	ウ どちらともいえない
2021 年	92.1	0.7	7.2
2020 年	86.3	0.7	13.0
2019 年	78.0	0.8	21.2
2018 年	73.7	2.1	24.2
2017 年	82.0	1.1	16.9

〔考察〕

昨年と比較すると、今後に活かせる学習になったとする割合は大きく増加し、過去 5 年間の中でも、最も高い割合となっている。これは、「相手の立場に立ち、自分に何ができるか考えたい」などの意見も複数あるように、DVD の内容が、分かりやすいストーリー展開と相まって自分事として捉えやすかったことも考えられる。

地域や職場における障がいのある人との関わり方については、プライバシーの問題や配慮が必要となる場合もあるが、心を寄りそわせ改めて自分ができることを知ることで、何が人権問題なのかを気づき、自信を持って行動することが可能になる。

人権問題の解消は、まず「知る、感じる、気づく」ことから始まり「行動」へと繋がっていくものであり、今後も「知る」、「感じる」、「気づく」を導く学習テーマや教材を提供し、一人ひとりが行動できるような学習としていく必要がある。

④ 次回の人権を学ぶ会は、

	ア 参加したい	イ 参加したくない	ウ どちらともいえない
2021 年	80.0	0.5	19.5
2020 年	74.3	0.7	25.0
2019 年	68.0	1.4	30.6
2018 年	70.5	1.3	28.2
2017 年	69.5	1.5	29.0

〔考察〕

設問①の分かりやすさや、設問⑤の満足度の割合が大きく増加したこともあり、次回の人権を学ぶ会に「参加したい」と回答した割合は過去 5 年間の中で最も高い割合となっている。

「参加したい」の理由として、「様々な差別や偏見を知り、その向き合い方を学びたい」、「学ぶ機会があることは重要」など、新たな知識を得ることができたことや、理解につながったとするアンケート意見があることから、実際に学びを確実に感じる参加者が次回も参加したいとする前向きな意見につながっていることが伺える。

様々な人権問題について自分事として現状を正しく把握し、差別を解消していくために、自分自身ができることは何か考えていただくことが必要である。

⑤ 今回の人権を学ぶ会の満足度はどれくらいですか？

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満
2021 年	49.0	43.1	6.3	1.3	0.3
2020 年	37.3	49.2	12.6	0.4	0.6
2019 年	27.4	52.6	18.0	1.9	0.1
2018 年	25.3	48.5	22.2	3.4	0.5
2017 年	30.3	47.1	20.0	2.1	0.5

〔考察〕

「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると 92.1%になり、過去 5 年間で最も高い満足度になっている。しかも、これまで一番高い割合が 86.5%だったことから今回の満足度の高さは際立つ結果となった。これは、設問①の分かりやすさも過去 5 年間で最も高い割合だったことも要因として挙げられ、分かりやすさに加え、身近なテーマ設定での学習内容が満足度を押し上げたものと推察される。

また、満足度に関しては懇談の有無も影響すると思われる。年に 1 回の限られた時間のなかで、参加者確保を含め「まず知ること」を優先するのか、参加者が少なくても一人ひとりの認識の「深まり」を優先するのか、又はその両立を図るのか。

今回は昨年同様、懇談なしとして実施したが、懇談の有無については当面は柔軟な対応をしていくことが求められる。

問 2 この 3 年間に人権学習の場に何回参加されましたか？

	ア 5回以上	イ 3回～4回	ウ 1回～2回	エ はじめて
2021 年	14.8	34.0	32.7	18.4
2020 年	17.9	37.1	30.0	15.0
2019 年	18.2	33.6	30.2	18.0
2018 年	17.6	33.3	32.8	16.3
2017 年	18.0	32.8	35.1	14.1

〔考察〕

はじめて参加した人の割合が過去 5 年間で最も高い割合となった。特に、北栄町健康サポーターによる朗読劇及び、(福)中部福祉会による体験型学習を実施した 3 自治会に限定すれば、はじめて参加した人は 39.1%と非常に高い割合となっており、新しい切り口での学習が、マンネリを防止するだけでなく、興味関心を持たせ人権を学ぶきっかけになり得ることを示している。

また、今年度も関連団体である「北栄町障がい者地域自立支援協議会」及び「北栄町福祉課」と連携し実施した。今後とも人権を学ぶ会で取り上げるテーマと関連する団体等と連携し、人権の取り組みの裾野を広げていくことを意識しながら、初めて参加される方を少しでも増やしていくことも含め、引き続き連携・啓発に努める必要がある。

問 3 今後、学びたい人権テーマや、興味ある人権テーマは？(上位 5 テーマ)

- | | | |
|----------------|--------------|--------|
| ①高齢者の人権 | 121 人(13.4%) | 昨年 1 位 |
| ②障がいのある人の人権 | 111 人(12.3%) | 昨年 2 位 |
| ③インターネットにおける人権 | 96 人(10.6%) | 昨年 3 位 |
| ③子どもの人権 | 96 人(10.6%) | 昨年 5 位 |
| ⑤プライバシーに関する人権 | 75 人(8.3%) | 昨年 4 位 |

問 4 今回の学習内容(人権問題)に関連したご意見・ご感想をご記入願います。

〔主な記述の抜粋〕

- ・普段、障がいのある人との関わりがほとんどなく、新聞・テレビで見てもピンとこなかったが、DVDを視聴して心に響くものがあり、よく考えられるようになった。
- ・自分を振り返る非常によいテーマだった。一人ひとりが大切にされる地域づくりに、一歩踏み出せたらと思う。
- ・正しい知識を持っていない事が不安につながり、不安が自己防衛のために思わぬ行動に出る。正しい知識を持つことがいかに大切であるか、改めて学んだ。
- ・「障害者差別解消法」が制定され企業の理解度はどの程度なのか？もっと企業で障がいに関する学習を深め理解が深まっていける社会であればと思う。
- ・昨今、スマホなどによる人権侵害、誹謗中傷が多く発生。常に相手の立場に立った気持ちで生活することを学ばせてもらえる。
- ・定期的に参加することで、改めて考えさせられる機会となると思う。
- ・コロナ禍の中での研修であり、少人数で残念だが内容はとても良かった。
- ・年に一度は人権を学び、自分を見つめ直すことはとても大切なことだと痛感した。
- ・コロナのため意見交換がなかったが、やはり必要だと思う。
- ・感動的なストーリーで、こんなに涙を流した事がなく参加して良かった。忙しい日々の中で、ほっこりする内容で生きるうえでとても役に立った。
- ・「北栄町障がい者地域自立支援協議会」という組織があることを知らなかったの
で、役場へ出向き詳細を尋ねたい。

〔考察〕

「コロナの影響もありながら実施できてよかった」、「人権学習を繰り返すことが大切」など、貴重な学びの場になっていることが伺える。また、DVD 視聴以外の新しい学習方法についても非常に好評であった。

ただし、知識を得た一方で、障がいのある人に対する実際の対応については、不安を感じたり躊躇する気持ちも伺えることから、配布資料に学習ポイントだけではなく、具体的な行動を例示するなど、さらに工夫していくことが必要である。

問 5 本町人権教育の取り組みについて、ご意見・ご要望があれば記入願います。

〔主な記述の抜粋〕

- ・良い町にしようという気概を感じた。
- ・パソコンなどではなく、今回のような対面式の学習がいいと思った。
- ・継続は力なり。同和問題でも長い間学習してこそ少しずついい方向へ進んでいると思う。一人ひとりの心の持ち方が変わり、良い社会になることを願いたい。
- ・長年DVD視聴で学習しているが、その他の方法も検討してほしい。
- ・このような研修を粘り強く継続し、発展させていってほしい。
- ・「思いやり」だけで終わってしまってはいけない。意識して行動に移すことこそ、第一歩ではないかと思う。
- ・集まらなくてもよいので、町民だけが期間限定で見られるようにネットで配信するなど、広くいろんな人にDVDを見てもらえるような取り組みも考えてほしい。
- ・学ぶ会に参加する人は、同じ人となっていると思う。いかに平素参加していない人を参加してもらうかが、課題と思われる。
- ・現状の取り組みで良い。

〔考察〕

様々な提言をいただき十分に検討していく必要がある。例年は若年層の参加促進や、他の自治会行事と併せた合同開催で参加者増をすべきなどの意見をいただいているが、今年度はコロナ禍においての実施方法や、懇談がなかったことについての意見を数多くいただいた。

コロナ禍においても安心して参加していただき、さらにマンネリと捉えられないよう「思い切った取り組みの変化」を含めて引き続き検討していくべきである。

〔おわりに〕

近年、少子高齢化、核家族化、ひとり親世帯の増加や地域のつながりの希薄化から、家族内や地域内での互いが支え合う力の低下が問題となっている。また、コミュニケーションの低下した状態での人間関係は、お互いを思い合い、違いを認め合うことも遠ざけてしまう。

このような社会状況の中で、地域の共助や地域全体で支える力を維持・再構築するためにも、町民一人ひとりが人権について学び、「誰一人取り残さない」地域にしていけるよう一緒に考え、実践することは重要であり、「人権を学ぶ会」の果たす役割も益々大きくなっている。

今後も、様々な人権問題の解消と人権が尊重された住みよいまちづくり推進のため、「人権を学ぶ会」を充実・発展させていき、“個性を認め合い、互いの心に寄りそうまち”をめざす必要がある。